

木曽地域におけるモビリティ・マネジメント(MM)の取り組みについて[案]

○木曽地域公共交通計画及び利便増進実施計画においては、利用促進に関する実施施策の1つとして、「モビリティ・マネジメント(MM)」を掲げています。以下にMMの概要を示すとともに、5ヶ年における木曽地域での取り組み内容とスケジュールについての案を示します。

モビリティ・マネジメントとは

- 一般的には、「過度に自動車に依存したライフスタイルを見直し、公共交通等を適切に利用することで、社会的にも個人的にも好ましい状況に移行させていく取り組み」などと定義されています。
- 取り組みに参加してもらう個人に対して意識変容を働きかけ、具体的な行動変容を促していくもので、意識変容に際しては、個人個人に効き目のある切り口で攻めることがポイントとなります。(⇒経済性・節約志向、健康増進、環境負荷低減など)
- とくに実施主体と対象者との個別のコミュニケーションを重視する点が特徴的でありつつも、大規模に実施していくことで効果を高めることも大きな特徴となっています。

木曽地域でのMM位置づけ

- 上記の通り、MMは大規模に取り組んでいくことが求められるため、事業所や学校、町内会などの組織・団体に所属する方に対して一斉に行われるケースが多くなっています。
- 具体的な手法としては、右記に示すような「トラベル・フィードバック・プログラム(TFP)」と呼ばれる往復型のアンケートが用いられ、狭義にはMM=TFPという認識もみられます。
- しかし、広義には、公共交通の利用促進の取り組みのうち、利用者側への呼びかけなどを含むものは、MMと位置づけて差し支えなく、木曽地域においては、説明会の開催やワークショップなども含めて幅広く実施していく予定です。
- ただし、施策体系として、高校進学時の説明会や高齢者向けの講演会などは別事業として位置づけているため、それらは別途実施していきますが、複合的に効果があがるよう連携したかたちで実施していきます。
- なお、計画に位置づけた取り組み団体数の目標値は「6」としています。

トラベルフィードバックプログラム

- ①:自身の日常の交通行動(自動車利用の距離・頻度・目的地)、居住地から利用可能な駅、バス停などの公共交通機関の状況、自動車利用に関する意識などをアンケートに回答
- ②:①をもとにその人にあった公共交通への利用転換パターンなどをフィードバック。その際、自動車の適切な使い方を記したリーフレットなども同封。公共交通を利用した新たな行動パターンなどを自身でも検討
- ③:②で回答したような行動に切り替えられたかどうかを改めて調査
- ④:取り組みの事前事後を比較した「交通診断カルテ」などを作成し、改めて回答者にフィードバック。引き続きの利用や今後の改善を呼びかける。

かしこい自動車の使い方を考えるプログラム
診断カルテ①

あなたの世帯番号 : 1001
あなたの個人番号 : 1

調査への協力、誠にありがとうございました。
あなたの7日間の交通行動を整理いたしましたので、ご自身で振り返ってみてください。

①月曜日 : 09/11
②火曜日 : 09/12
③水曜日 : 09/13
④木曜日 : 09/14

⑤金曜日 : 09/15
⑥土曜日 : 09/16
⑦日曜日 : 09/17

今日の一言 :
● あなたの診断結果
ダイアリー1ではとても手間のかかる調査にご協力いただき、ありがとうございました。これからのあなたの交通行動についてお願ひがあります。交通渋滞や大気汚染をできるだけ少なくするため、一度の外出で複数の用事を済ませる「トリップチェーン」、部心の縁までは自家用車でも部心部へは公共交通機関を利用する「パークアンドライド」、一台の自動車に複数の人が乗って一緒に用事を済ますようにする「シェアリング」、などの行動方法を実践してみてください。詳しくは、同封する「語句の説明」の紙に書いてあります。

あなたは、街の大気汚染や渋滞を減らす手助けとなる理想的な交通行動を実践しています。いつも動機先へ公共交通機関で通ってですね。今後も公共交通機関を利用してください。

あなたの歩行時間66分でした。たとえば10分歩いたとすると4.8kcal(みかん約2個分)消費しますから、ダイエットや健康増進にも役に立ちます。これからは生活に歩くことを取り入れてください。

あなたの7日間の交通機関利用状況

交通機関	回数	時間	あなたの歩行時間	歩行時間
7 徒歩	14回	66分	6.00	133.30
8 自転車	4回	40分	4.00	16.10
9 バイク	0回	0分	0.00	118.80
10 タクシー	1回	10分	1.00	31.10
11 路線バス	1回	11分	1.10	63.90
12 市電	0回	0分	2.00	63.00
13 JR	7回	207分	6.40	182.20
14 地下鉄	7回	110分	4.20	148.90
15 トラック	0回	0分	10.00	440.10
16 自家用車(運転)	12回	250分	12.00	313.10
17 自家用車(同乗)	0回	0分	5.10	197.70
18 自家用車以外(運転)	0回	0分	6.40	336.70
19 自家用車以外(同乗)	0回	0分	2.30	61.20
20 その他	0回	0分	2.10	124.70

あなたの7日間の交通機関利用状況
あなたの歩行時間 : 694分 (平均 53.20)

資料:かしこい車の使い方を旨じたトラベル・フィードバック・プログラムの試み
(札幌都市圏 谷口綾子ら 公益社団法人日本オペレーションズリサーチ)

取り組み手順

- ①バス路線沿線の候補事業所、団体等の抽出
- ②事業所、団体等への呼びかけ、協力依頼
- ③対象事業所、団体等に適したTFP、ワークショップ等の企画、実施
- ④取り組み結果の評価・検証

対象事業所・団体

- ・行政機関(県の機関、町村役場等)
- ・町内会(バス沿線住民等)
- ・高齢者クラブ
- ・民間企業(金融機関等)
- ・高校

事業費用

- 令和8年度においては市内での実施とし、ゼロ予算での可能な範囲で実施します。
- 令和9年度以降は、令和8年度の実績も踏まえて、予算を確保してTFPや講演会などを実施していく、各年度の予算は概ね1,500千円を見込み、このうちの1/2を「地域公共交通確保維持改善事業補助金(利便増進計画推進事業)」により取得することを目指します。
- 残りは各町村からの負担金で賄うことを見込みます。

実施主体

- MM事業は法定協事務局にて実施するものとしませんが、候補事業所の選定、調整などは町村担当課にも対応を求めるものとします。

スケジュール(計画期間5ヶ年)

年度	取り組み内容	事業所・団体数
令和7年度	・事業企画など	—
令和8年度	・ノーマイカー運動など ⇒バス通勤に転換した回数計測 ⇒ノーマイカーデーの懇親会設定	6町村役場 木曾合庁内の各事務所[7]
令和9年度	・TFP(200名程度) ・講演会開催	町内会(バス沿線住民)[3] 高齢者クラブ[1]
令和10年度	・TFP(150名程度 =青峰高・蘇南高1学年) ・生徒会などとのワークショップ	高校[2]
令和11年度	・TFP(300名程度) ・取り組み結果の総括	民間企業[2]
	合計	15(行政機関除き8)